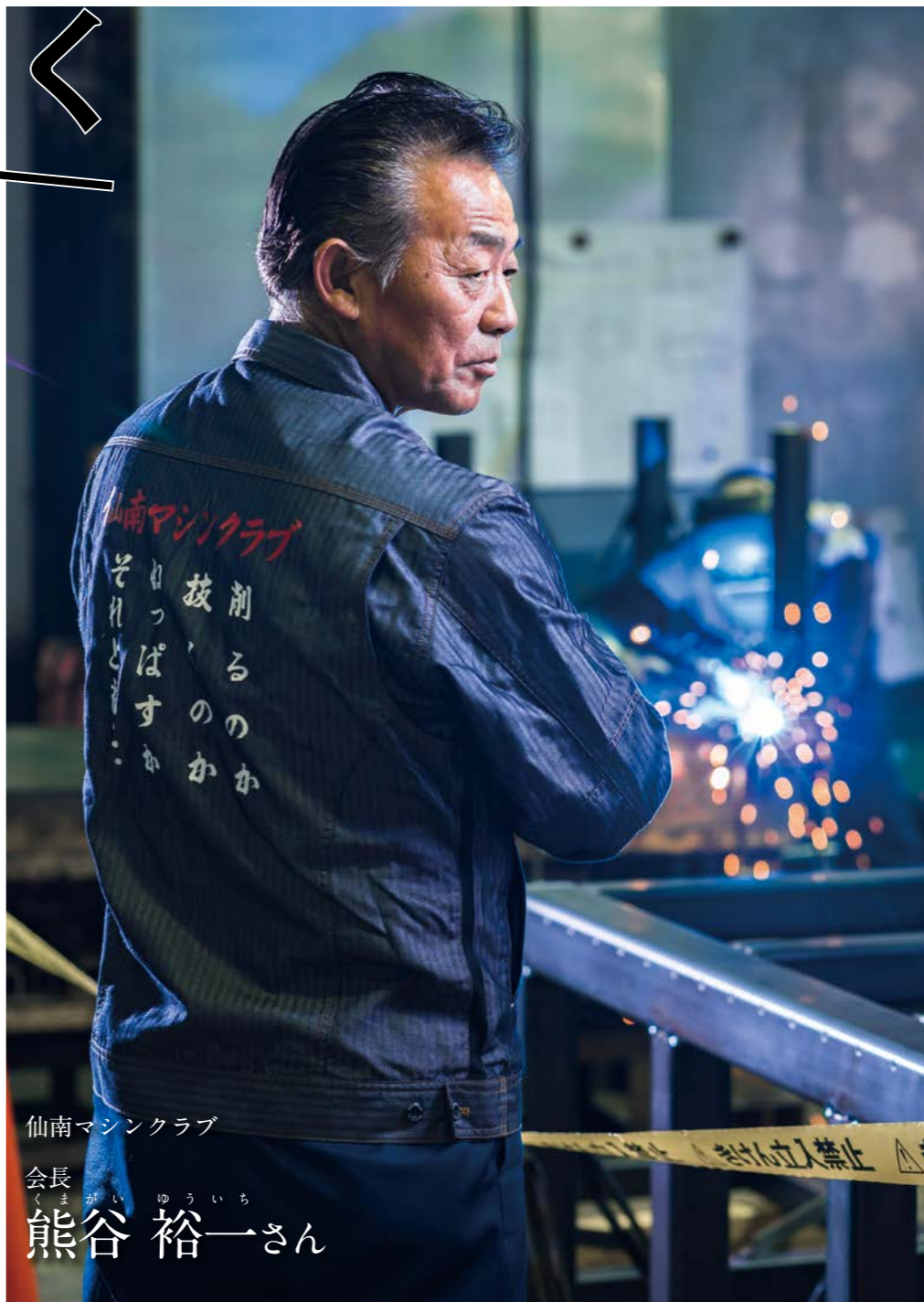


あすを拓く

「削るのか、抜くのか
ねっばすか、それとも・・・」
多彩なものづくりのプロ集団を束ね、
金属コマづくりで高校生に未来を託す。



仙南マシクラブ
会長 熊谷裕一さん

プロフィール
1961年、角田市生まれ。角田高等学校卒業。1980年、株式会社ヒキ子に入社。精密板金、切削機械加工を経験し、常務取締役などを経て、2014年より取締役社長に就任。現在、仙南マシクラブの会長として、仙南地域のものづくり関連中小企業の連携と金属コマの普及による地域貢献活動に努めている

きっかけは、世代交代
金属コマで新たな活動を模索

仙南マシクラブは1995年頃、仙南地域のものづくり中小企業の経営者らで結成された。機械加工やプレス加工、板金加工、溶接など金属加工業のほか、機械設備の製造・販売、リサイクル業など幅広い分野のメンバーが集まり、交友を深めた。

「私が前会長と交代したのは、5年くらい前。その頃、ほかの会員企業でも代替わりが進み、マシクラブも若手メンバーが中心となりました」

体制も新しくなったことだし、何か新しいことを始めてみようかと、注目したのが、金属コマだった。

金属コマとは、ものづくり中小企業や学生らが自作する「喧嘩ゴマ」のことで、NPO法人全日本製造業コマ大戦協会（愛知県）が運営する「全日本製造業コマ大戦」が全国各地で開催されている。

ものづくり中小企業の多くは、大手メーカーの下請けとして日本の製造業を支えている。そのため、ほとんどの企業が自社ブランドの製品を作る機会がなかった。「自社が持つ技術とアイデアをコマに託し、プライドをかけて戦う製造業コマ大戦は、私たち中小企業にスポットライトが当たる貴重な表舞台でした」と熊谷さんは説明する。マシクラブの会員にも、製造業コマ大戦に参加する企業があり、年間全国ランキングで1位に輝いた強豪もいる。

県内すべての工業系高校を訪れ
コマ大戦への参加を呼び掛ける

金属コマを子どもたちに体験させれば、ものづくりの魅力を発信することができるのではないだろうか。と3年前に、メンバーのコンクッションで多賀城市内の公民館の協力を得て、小中学生対象の金属コマづくりのイベントを実施した。

不安を抱きながら当日を迎えると、20組の枠はすぐに埋まった。「翌日もやらないのか」という問い合わせが来るほどの盛況ぶりに、熊谷さんたちは驚いたという。

「このイベントは、4年目となる今年も継続して開催しています。ほかにも口コミで評判が広がり、県内外からのオフアワーを受けて、様々なイベントやワークショップに参加しました」

子ども向けイベントに手応えをつかんだマシクラブは、県内の工業系高校へのアプローチを始めた。

「高校生ものづくりコンテスト」や「全国高等学校ロボット競技大会」と同様に、製造業コマ大戦も高校生にとってのものづくりで技を競い合う機会となるはず。上手くいけば、若手人材の確保に苦しむ中小企業と高校生をつなぐチャンスになるかもしれないという期待もあった。

「私たちは、県内すべての工業系高校を訪ねて、先生の協力と生徒の参加を呼び掛けました。先生にも関心を持ってもらおうと、実際にコマを回してもらいました」

コマづくりを全力支援
高校生とともに競技を盛り上げる

2017年の秋に開催された、全日本製造業コマ大戦「しばた産業フェスティバル場所」では、3つの高校から6チームが参加し、企業チームに挑んだ。翌18年は、12チームが増え、学生部門を新設。「今年は15チームの参加がありました」と熊谷さんは笑顔だ。

「直径20ミリ以下、全長60ミリ以内のコマ」という公式ルールに加え、学生部門では、使用する材料も限定。「高校生のアイデアと金属加工のスキルを、より勝負に生かせるように」とのねらいもある。

伊具高校の依頼を受け、6月からマシクラブのメンバーが、生徒のコマづくりをサポートした。学生部門に2チームが参加したが、悲願の優勝は来年以降に持ち越された。

それでも生徒は、「準優勝できたのは、マシクラブのおかげです。悩んでいた時、プロからのアドバイスは、とてもためになりました」と清々しかった。閉会後に駆け寄り、深々と頭を下げる生徒たちに、熊谷さんは「ごころうさん」とねぎらった。

熊谷さんは言う。「アイデアを出し合い、作業を分担して一つのものを作る。ものづくりの現場では、まさに同じことが起きています。これからも、大会を盛り上げ、高校生にもものづくりの醍醐味を伝えたいと思います！」



決勝戦に挑む伊具高校チームの生徒。審判の「はっきょい、のこった」の掛け声で勝負が始まる

11月3日の午後。船岡小学校（柴田町）の体育館で、仙台高等専門学校名取キャンパスの生徒と伊具高等学校（丸森町）の生徒が、自作した金属コマをぶつけ合い真剣勝負をくり広げた。「土俵」と呼ばれる台の上でコマを回し、先に回転が止まったり土俵の外に出たりした方が負け。先に2連勝したチームが勝ちあがるルールだ。

トーナメント戦を勝ち上がった両チームは、昨年に続き決勝で対戦。リベンジに燃える伊具高校チームだったが、今年も相手に軍配が上がる。台風19号の爪あとが残る丸森町から駆け付けた生徒の健闘に、会場からは大きな拍手が送られた。

その様子を解説者席からじっと見つめていた、仙南マシクラブの熊谷裕一会長。大会終了後、「今年も惜しい結果となりましたが、この悔しさを必ず今後に生かしてくれるはずですよ」と熱く語った。



製造業コマ大戦は、優勝チームがコマを総取り。荣誉とともにアイデアや技術も獲得できる



この日は、来年2月の世界大会の予選会も行われ、熊谷会長も参加した



「金属コマは、子どもから大人まで誰でも参加できるところが最大の魅力」と語る

仙南マシクラブ

宮城県仙南地域で製造業に関連する中小企業の経営者らが参加する任意団体。心・技・体のすべてにおいて切磋琢磨することを大前提に、ものづくりを通じた地域貢献に取り組む

■会員企業

おた精工、(株)加藤精機製作所、(有)キクチ工業所、(株)庄司製作所、(株)大善製作所、(株)テクノニッセイ、(有)花島エンジニア、(株)ヒキ子、(有)ミヤギエンジニア、(株)岩沼精工、(有)太田プレス工業、(株)角谷製作所、藤美工房、(株)秋保金属、(株)安藤仁七商店、イケダ工機 (株)、SBS 三愛ロジ東日本 (株)、(株)NC ネットワーク、KEM (JAPAN)、(株)ソディック (計20社)